

永末吉右衛門は1917年に福智町（旧方城町）に生まれました。1938年日中戦争に招集され南中国に赴き、1940年広東省で行軍中落馬し脊椎を損傷する大怪我を負ってしまいました。各地の陸軍病院を転々とし、1944年9月除隊帰郷しました。傷痍軍人として生涯腰に不安を抱え苦しむことが度々あったといいます。



帰郷後、となり村の上野焼高鶴窯にて窯焚きなど手伝いながら陶芸に触れることとなります。このころ歴史家で上野、高取焼研究家の美和弥之助氏（1906-1981）と知り合い、彼の勧めで京都で陶芸を学ぶことを決断します。宇治の朝日焼第14代松林豊斎氏（1921-2004）の元で学ぶことを許され1946～1948年の約2年間京風のお茶陶に触れることができました。自ずと吉右衛門のロクロの手法、道具の使い方、窯焚きは京風となりました。

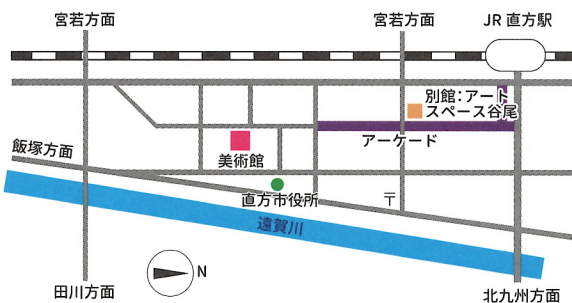


帰郷後、1949年に豊前吉右衛門窯を福智町に開き、長男の修策が生まれます。1973年修策はメキシコに渡り、1978年には田川市出身の村田みづ枝と結婚します。1984年二人は帰国し吉右衛門と共に作陶生活に入ります。2005年吉右衛門没後も豊前吉右衛門窯は続きます。



本展覧会は永末吉右衛門が窯を開いて70周年にあたる2020年に実施される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大のもと延期を余儀なくされました。この度、窯元を開業した1949年以前の1944年に吉右衛門が作陶を始めて75年の月日を経たことから、本展覧会の題字を豊前吉右衛門窯75年のあゆみと改め開催いたします。

直方谷尾美術館までのアクセス



■交通案内
公共交通機関：JR直方駅、平成筑豊鉄道直方駅、西鉄バス直方バスセンターから徒歩10分
自家用車：九州自動車道鞍手ICから約20分。北九州都市高速道路金剛出口から約17分
駐車場有（7台）

美術館HP <http://yumenity.jp/tanio/>



永末吉右衛門（1917～2005）

関連イベント

呈茶のおもてなし

日時 ① 4月30日(日)
② 5月20日(土)
③ 6月11日(日)
各回 10:00～15:30
*各回定員に達し次第、終了
定員 各日先着30名まで
内容 「点て出し（たてだし）」形式で薄茶を楽しんでいただきます。豊前吉右衛門窯の茶碗で一服いかがでしょうか。
予約不要・入館料のみ必要

トークイベント

日時 5月3日(水・祝)
11:00～12:00(終了見込)
内容 豊前吉右衛門窯75年のあゆみについて、初代永末吉右衛門の頃から永末修策さんとともにふりかえります。
出演 永末修策(陶芸家)
予約不要・入館料のみ必要



永末吉右衛門「刻染付花文大皿」

期間中イベント

探そう！美術館のひみつ

日時 5月14日(日)
(受付時間) 10:00～16:00
*所要時間は30分～1時間程度
参加費 無料・入館料のみ必要
内容 館内の展示を見ながら、出題されるクイズを解いていく子ども向けの探検ワークショップです。建物や美術品に隠された美術館のひみつを見つけよう！
定員 50名(先着順。当日受付の場合、混雑時には予約した方優先でご案内いたします。)
予約 0949-22-0038(直方谷尾美術館まで)

直方谷尾美術館
NOGATA TANIO ART MUSEUM